

# 病院とスポーツ

第30回



～医療現場の絆を紡ぐ～

医療現場では以前から「縦割り組織」の弊害が指摘されてきた。

部署間でのヨコの連携を密にし、いかに風通しを良くするか。

連載では、スポーツを通じて職員間の絆を深め、組織強化などに役立っている病院を取り上げる。

## 東京五輪のレガシー 誇りを胸に「世界」めざす

医療法人社団東光会

戸田中央総合病院

(埼玉県戸田市)

上

### 埼玉国体に向けた強化が出発点 全日本選手権などで輝かしい実績

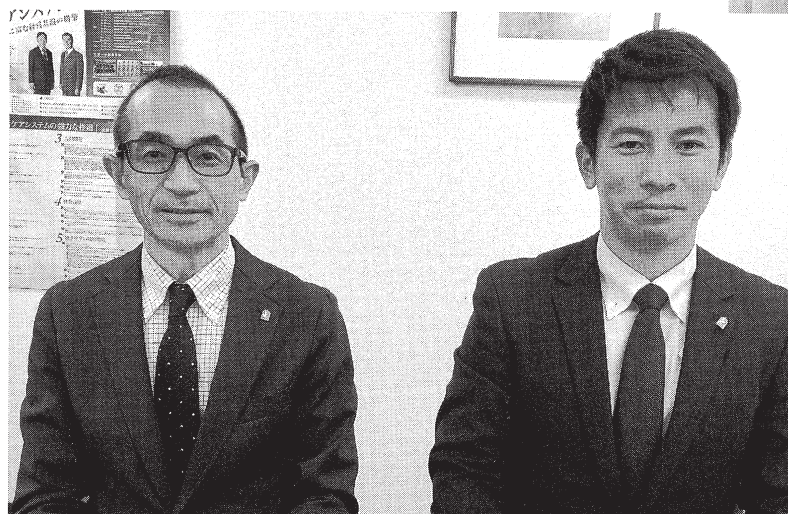
埼玉県戸田市にある戸田漕艇場は、日本のボート競技の「聖地」と呼ばれる。国内唯一の人工的につくられた静水ボートコース(長さ2400m、幅90m、水深2.5m)で、1964年東京オリンピックのボート競技会場となったからだ。東京五輪の際に設けられた聖火台が当時の名残をとどめ、近くには大学や企業チームのボートを収納する艇庫が立ち並ぶ。

戸田中央メディカルケアグループ(TMG)は、1都4県に29の病院と6つの老人保健施設のほか、特別養護老人ホーム、診療所など計120カ所の関連事業所を展開。医療・介護・保健・福祉を担うトータルヘルスケアネットワークの中核が、戸田中央総合病院だ。

「Red Angels」の愛称で親しまれているローイングクラブの創設は2002年にさかのぼる。04年に埼玉県で開催された「彩の国まごころ国体」に向けた県チームの選手強化に向けた拠点として、同市からの要請を受け誕生した。

部長を務めるTMG本部の藤野浩一郎・人財開発センター長は「戸田市に本拠地を置くわれわれとして協力できることがないかということで、ローイングクラブが生まれました。当グループには1976年創部の女子ソフトボール部(現・戸田中央メディックス埼玉)などスポーツ活動を応援するベースがあり、2011年には国内初の医療法人所属の女子ラグビークラブ(現・YOKOHAMA TKM)も創設し、それぞれ国内トップレベルの活躍をしています」と説明する。

選手の競技への情熱と病院側の理解が相まって、クラ



スポーツへの熱い思いを語る戸田中央総合病院ローイングクラブの藤野浩一郎部長(左)と田立健太監督

ブは国体終了後も存続。国内屈指の強豪ボートチームに成長し、国内最高峰の大会である全日本ローイング選手権のタイトル獲得など輝かしい実績を誇る。08年の北京五輪に出場したOGの浜田(旧姓・熊倉)美咲さんをはじめ、五輪や世界選手権代表など国際舞台で活躍する選手を輩出してきた。

TMG本部人財開発センターに勤務する田立健太監督は「プロチームではありませんので、競技はもちろん、仕事も一生懸命取り組むことをクラブ活動のモットーにしています。そのスタンスを貫いてきたからこそ評価いただいていると思います」と胸を張る。

23年度には柿島麗選手がシニア日本代表に選ばれた。クラブとしては、現役時代の田立監督が09年度から9年連続でシニア日本代表に選出されて以来、6年ぶりの快挙だった。